令和元年度　第２回安来市総合教育会議　会議録

１．日　時　　令和元年１１月２２日（金）１５時３０分から１７時１５分
２．会　場　　安来庁舎　防災対策室
３．出席者
（構成員）　安来市長　近藤宏樹
教育長　　勝部慎哉
教育委員　三輪喜美代
教育委員　加藤隆志
教育委員　岡本亮啓
教育委員　小村修司
（事務局）　総務部長　清水保生
教育部長　辻谷洋子
教育次長　青戸厚志
総務課長　金山尚志
学校教育課長　成相和広
給食教育課長　遠藤朋範
文化財課長　大谷　宏
人権施策推進課長　池上孝順
子ども未来課長　村社芳行
学校教育課主査　三代和宏
政策秘書課主査　淀谷正臣
教育総務課総務係長　足立隆博
学校教育課学事係長　青木尚美
福祉課地域福祉係長　石原陽介
文化スポーツ振興課スポーツ振興係長　野坂茂樹
文化スポーツ振興課文化振興係長　石倉　司
地域振興課主任　角原　宙
総務課主幹　兒玉尚子
（司　会）　総務課長　金山尚志
４．欠席者　　なし
５．傍聴者　　１名
６．議　題　　（１）安来市教育大綱の改定について
（２）安来市の教育振興について
７．内　容
〇金山総務課長（事務局）
よろしいですか。失礼します。御案内しておりました時刻になりましたので、ただいまから令和元年度第 2 回総合教育会議を開催いたします。皆様にお忙しい中、本会議に御出席いただきまして、ありがとうございます。議事に入るまでのところは、総務課で進行させていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。まず初めに、近藤市長から御挨拶申し上げます。
○近藤市長
皆さんこんにちは。令和元年度、第 2 回安来市総合会議の開催にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。
教育委員の皆様方におかれましては、平素より本市の教育行政の推進に格別の御理解を賜りますこれを申し上げる次第でございます。
さて本日の総合教育会議は、7 月以来、今年度 2 回目の開催であります。本日の議題は、教育大綱の改定、そして安来市の教育振興についての 2 つとしております。
教育大綱の改定につきましては、前回改定の方向性について御協議いただきましたが、今回は、その方向性に基づいて、作成した素案をもとにご協議いただきたいと思っております。
また、安来市の教育振興につきましては、ＩＣＴ環境など、教育環境の整備や、児童虐待など、子供たちを取り巻く環境等さまざまな課題について自由な意見交換の場としたいと考えております。委員の皆様から忌憚のない御意見を賜りますようにお願いを申し上げ、簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。
○金山総務課長（事務局）
それでは会議に入ります前に、本日の資料を確認させていただきます。まず、レジュメが 1 枚、それから出席者名簿、それから資料 1 としまして、過去の会議の議題、それから、資料 2 といたしまして、安来市の児童家庭相談体制、この資料 1 と 2 は、(2) の意見交換のときの参考資料として添付させていただきました。それから、安来市教育大綱、1 期目のものですけれども参考につけさせていただいております。それから、事前配布をさせていただきました第 2 期の大綱でございます。若干、誤字があったりしましたのでそれを修正したものを、改めて配付させていただきました。それから、委員の皆様方のみ、こちらの意見記入用紙をつけさせていただいております。よろしいでしょうか。
本日の会議の終了時刻は概ね 17 時を予定しておりますので、ご協力をお願いいたします。
それでは、安来市総合教育会議設置要綱により、市長に議長としてこの会議の進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。
○議長（市長）
それでは、早速議題に入りたいと思います。議題（1)「安来市教育大綱の改定について」事務局から説明をお願いします。
（挙手）
○金山総務課長（事務局）
はい。それでは、第 2 期安来市教育大綱素案の冊子をもとに、ご説明させていただきます。
座って失礼いたします。この第 2 期安来市教育大綱でございますけれども、今回、素案をお示ししておりますが、第 1 期の計画を時点修正するとともに、学びに関わる市民活動と、子育て支援を追加したというような形で作成しております。
それでは、1 ページ目をごらんください。まず、1 番上の大綱の策定の背景と趣旨でございます。この大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、いわゆる、地方教育行政法の規定に基づいて義務づけられたものでございます。市長が総合教育会議において協議の上、その目標、それから、根本となる方針を定めるものでございます。現在の大綱が令和元年度に終期になること

から、令和2年度を始期とする第2期大綱を策定するというような趣旨でございます。

次に大綱の実施期間でございます。大綱につきましては、この法律の中では、特に大綱の期間というものは、定めはございませんが、文部科学省の通知によれば、市長の任期4年、国の計画4年から5年程度を、参考として、市町村の実情に合わせて策定するということになっております。安来市におきましては、第2次安来市総合計画の後期基本計画が、令和2年度から令和7年度となっていることから、これにあわせまして、6年間の計画としたいというようなものでございます。

それから、大綱の位置付けでございます。安来市には最上位計画として、第2次安来市総合計画を現在策定しております。この最上位計画に基づきまして、その下位計画として、教育部分について、安来市教育大綱を、定めるものでございます。あわせて法律において、国の計画であります第3期教育振興基本計画、こちらを参酌することになっておりますので、こちらを参酌して、安来市の教育の根本的な方針を定め、そして、総合的な教育行政の推進に、努めてまいるというものでございます。この大綱については、計画ではございません。方針を定めるというものになっております。

では、2ページ目をごらんください。基本理念です。基本理念につきましては、前計画、今の第1期計画を引き続く形で、ふるさとを愛し、未来をたくましく切り開き、社会に貢献する、心豊かな人づくり、この計画がこの文言を引き続き挙げるような形でお示ししております。中の文章でございますが、変わったところとしましては、真ん中あたりに、三つの柱を書いております。前回の計画では、3本柱が、学校教育をベースにした知育、徳育、体育の3本柱としておりましたが、後ほどご説明しますが、今回は、学校教育に加え、市民活動、それから子育て支援の充実という二つの柱が加わりましたので、それに学校教育を加えた、3本柱を基軸として、子供から大人まで、教育を推進するというような形で文言を修正しております。

3ページ目をごらんください。3ページ目は、大綱の施策体系でございます。先ほど申し上げました基本方針としましては、学校教育の充実、学びを通じた市民活動の推進、それから3点目に学びを支える子育ての支援の充実、この3本柱を基本方針といたしました。前回の大綱でございますけれども、前回の大綱に当たる部分が、学校教育の充実に当たる部分でございます。右側に、基本目標を⑫まで挙げておりますが、このうち、学校教育の充実が①から⑤までございます。もともと、この①から⑤、前回の計画では①から⑥でありましたけれども、そのまま、①知育、②徳育、③体育につきましてはそのまま、それからふるさと教育もそのままですが、この⑤の部分が二つに分かれていたものを、一つにまとめたという形になっております。

それから、学びを通じた市民活動の推進につきましては、⑥生涯学習の推進、⑦スポーツ活動の推進、⑧文化活動の推進と文化財の保存活用、⑨人権の尊重と相互理解の推進、この四つの基本目標がつくような体系となっております。

学びを支える子育て支援の充実につきましては、同じスタートラインで学べるようにというものでございまして、⑩幼児教育・保育の充実、⑪放課後等に安心して過ごせる環境の整備、それから⑫青少年の健全育成、この3つからなる体系となっております。これを増やした経過としましては前回もご説明しましたが、法律において、教育、それから学術振興文化振興、こういったものを総合教育会議で協議をするということが示されております。また、法律の解説的なものになりますけれども、文部科学省からの通知におきまして、幼児教育保育、青少年健全育成、放課

後、それから子育て支援といったものが例示されていることから、この二つの大きな柱を追加したものでございます。

では、4ページ、お開きください。一つ目の柱でございます方針1、学校教育の充実でございます。この部分につきましては、第1期の大綱の時点修正を中心につくったものでございます。

基本目標①確かな学力を育てる教育の推進、これは、知育に当たる部分でございます。新しい時代に必要となる資質能力を高めるため、知識技能の習得、学ぶ意欲の涵養、思考力判断力表現力の育成を図っていくというものでございます。主な取り組みとしましては、学力の向上、外国語教育、情報活用教育、特別支援教育を挙げております。前回の計画におきましては、国際理解教育というふうに挙げていたものは、この外国語教育の範疇の中に入っていくものでございます。あわせて、図書館活用教育の部分が情報活用教育に入っていくというようなものでございます。

それから、基本目標②豊かな心を育てる教育の推進、これは、徳育に当たる部分でございます。主な取り組みとしましては、ふるまいの向上、人権教育、道徳教育、いじめの未然防止等を挙げております。

基本目標③につきましては、健康な心身を育てる、教育の推進、体育に当たる部分でございます。心身の健康は生涯にわたって輝いて暮らす活力のもととなるということで、たくましい体を育む、教育によって育んでいくというものでございます。主な取り組みとしては、体力づくり、食育、生活習慣づくり、安全教育を掲げております。

基本目標④はふるさと教育の推進でございます。安来市の豊かな自然、産業、こういったものを生かして、教育施策を進めております。主な取り組みとしては、ふるさと教育、キャリア教育、環境教育を掲げております。若干、前回に比べて文言整理をしております。

基本目標⑤につきましては、学びを支える教育環境の充実でございます。前回の大綱について、おきましては、学び環境の充実と、それから組織体制の推進ということで、二つのものに分かれておりましたが、それらをまとめた形で、文言を修正しております。また主な取り組みにつきましては、前回は、かなり細かい事業を書いておりましたが、方向性を示すというものでございますので、そこは、再整理させていただいております。書き加えているものとしましては就学援助の充実、それから、特別な配慮が必要なインクルーシブ教育システムの構築、それからＩＣＴ環境の整備等を書き加えております。

二つ目の柱でございます。6ページをお開きください。方針２　学びを通じた市民活動の推進でございます。社会教育、それから文化に関連するようなものがこちらのほうでございます。新たに追加したものにつきましては、総合計画、及び個別計画という既存の計画の主な部分を、教育にかかわる部分を抜粋するような形で掲載しております。

基本目標⑥は、生涯学習の推進でございます。生涯にわたり学び続けるために、生涯学習の社会の推進を目指すもので、学校、家庭、地域の連携等を書き込んでおります。主な取り組みとしては、図書館とかになりますけれども、学習の場の提供、それからふるさと教育の推進、地域人材の育成、それから、現在計画を策定中の、消費者教育の推進を挙げております。

それから基本目標⑦、スポーツ活動の推進でございます。スポーツにつきましては、スポーツ推進計画を策定しております。どこでも誰でも、いつまでもスポーツの楽しさや喜びを実感できるまちということを目標に掲げておりまして、主な取り組みとしましては、市民の体力向上及び健康づくりの推進、それから、スポーツ文化の継承、スポーツ競技力の向上、スポーツを通じた

ネットワークづくりという、四つの柱が計画にありますけれどもこれに障害のある方のスポーツ推進も加えた形で掲げております。

基本目標の⑧は、文化活動の推進と文化財の保存活用でございます。アルテピア、総合文化ホールテピアを拠点とした、文化芸術に親しみやすい環境整備、それから月山富田城などの文化財、それから伝統文化の保存活用、こういったものを書き込んでおります。

基本目標の⑨につきましては、人権の尊重と、総合理解の推進ということで、人権教育、男女共同参画、多文化共生、青少年交流などを行っている国際交流の推進、それから、市は加納莞蕾さんの出身地でありますけれども、平和学習などの平和教育の推進、こういったものであります。

次に 8 ページでございます。三つ目の柱、学びを支える子育て支援の充実でございます。同じスタートラインで学べる環境をつくっていくというようなことで、おおむね福祉分野のうち教育にかかわる部分を、こちらのほうに掲載しております。

基本目標の⑩、幼児教育、保育の充実につきましては、子供子育て支援、事業計画に沿って、施策を推進、幼稚園保育所こども園等を通じて、幼児教育や保育を充実させていくというものでございます。

基本目標の⑪は、放課後に安心して過ごせる環境の整備ということで、放課後児童クラブ、それから交流センターを連携、連携した居場所づくり、こちらのほうを掲げております。

最後、基本目標の⑫、青少年の健全育成につきましては、家庭や地域学校、関係機関が一体となって、青少年育成の環境をつくっていくということで、電子メディアの適切な利用、それから、豊かな人間性を育むための多様な体験活動の機会の提供、それから、有害環境対策の推進、地域家庭の協力教育力向上を挙げております。

以上、雑駁ですけれども、第 2 期大綱の概要を述べさせていただきました。こちらのほうのスケジュールですけれども、今回この素案をたたき台にして、御意見をいただき、並行して、策定中の総合計画の後期計画も踏まえて、次回、2 月に修正案を示したいと考えております。以上雑駁ですけれども、説明とさせていただきます。

○議長（市長）

はい。ただいま、いわゆる安来市教育大綱について、素案ですが、説明がありました。このことにつきましてご意見がありましたらお願いいたします。

○加藤委員

ちょっと聞きなれない言葉が出たんですけども、質問させていただきます。6 ページの方針 2 の生涯学習の推進の主な取組みの内容で、1 番最後の消費者教育の推進についてなかなか聞きなれない言葉ですので、教えていただきたいと思います。説明では、計画を策定中ということですが、分かる範囲で結構ですのでよろしくお願いします。

（挙手）

○池上人権施策推進課長

はい、人権施策推進課の池上と申します。よろしくお願いします。

消費者教育の推進ということでございますけども、ただいま、来年度から 5 年間の消費者教育推進計画というものを策定中でございます。これは、県内では松江市に次いで 2 番目ということで、早い取り組みになっているというふうに考えております。この計画について、中身についてはですね、第 9 ステージは、幼少期から高齢期まで、非常に多岐にわたるんですけども、その中

で、例えば、今はやりの特殊詐欺であったり、それから、成人年齢が下がるということを踏まえて、消費者の教育をどんどん進めていって、計画ができましたら、各団体であり、地域であり、学校であり、そういうところに向けて、そういった消費者教育を広めて、周知していくというふうには考えているところであります。

○議長（市長）

よろしいですか。

○加藤委員

何かよく分かったような分からないような感じです。5 カ年計画っていう話しでしたけど、もう決まっているのですか？

（挙手）

○池上人権施策推進課長

令和 2 年から 5 年間を計画しています。

○議長（市長）

いわゆる消費者として、いろんなそういう犯罪とかそういうものに巻き込まれないような教育をしていくということですね。

（挙手）

○池上人権施策推進課長

はい。市民相談係というのがございまして、消費者センターなんですけども、いろんな相談も含めて、消費者に限らずですが、年間約 200 件ぐらいの相談が来ております。電話、面談含めまして。そういったところの些細な相談についても全部、こちらのほうに回ってくるということで、賢い消費者をつくっていくという目標が一つあります。そういったところを広げていって、できるだけ相談件数も少なく自分で解決できるような形にしていくというのが理想です。

○議長（市長）

はい。ほかにございませんか。

○小村委員

基本的なことで申しわけないんですけど、5 ページのインクルーシブ教育とはどういったものですか？

（挙手）

○成相学校教育課長

はい。誰もがいろんな、条件を平等にしてですね、学びたいところで学ぶということですね。例えば、具体で言うと、学校の中で通常学級特別支援学級があって、やっているわけですけども、特別支援学級の障害をがある子供達でも、通常学級の中で学びたいということであれば、学んでいけるとい教育、枠をを取っ払った教育というものです。

○議長（市長）

よろしいですか。

○小村委員

わかりました。

○議長（市長）

ほかにはございませんか。

○岡本委員

生涯学習に関ってだと思うんですけども、最近100歳まで生きるということを前提にして学び直しというようなことがよく出ているんですけど、それについては下の主な取り組みの中で地域人材の育成というところに含まれたような、感じなんでしょうか。言葉としてはそれは出てこないで、地域人材の育成というような形で挙げられているのか。

（挙手）

○角原地域振興課主任

失礼します。生涯学習の推進の中でございますけれども、今おっしゃられたような質問に対しましては、地域人材育成にも当たるかと思いますが、その前段の学習の場の提供というところでございまして、主に安来市におきましては交流センターを各種の場の基本的な拠点として、社会教育施設として運営をさせていただいております。その中でも、各個人等で要請をしたようなサークル活動であったりとか、そういったものが、現在も盛んに行われておりますので、そういった部分を継続して事業として実施していきたいというふうに思っております。以上です。

○岡本委員

ありがとうございました。

○議長（市長）

はい、ほかにはございませんか。

○議長（市長）

それではですね、今すぐ質問はないかというふうに思います。なかなか今見てすぐということになりませんので、その他の御意見がありましたら、皆様のお手元に意見記入用紙が配ってあります。後日総務課のほうに提出していただきますようお願いいたします。次回2月の総合教育会議において、それまでに手直しし、決定する運びとさせていただきますので、帰られてから吟味していただきたいとこういうふうに思います。第1の議題はこれで終了したいと思います。

続きまして、議題2の安来市の教育振興について自由な意見交換をお願いしたいと思います。これはですね、これまで、教育委員皆様方に、子どもの学力向上に向けた取り組み、子どもの体力向上、食育について、ふるさと教育の推進について、いじめ防止に係る取り組みについて、子どもの貧困について、外国語教育拡充の施策について、子供の志の育成について、子どものネットについて、子どもの虐待について、学校配置の適正化について、学校の部活動について、そして学校におけるICT環境整備について、いろいろ多岐にわたって、お話を皆さん方とさせていただいたところでございます。

今日はその中で一つ、ICT環境の整備、あるいは、児童虐待などテーマを絞って、皆様方とお話をさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いしたいと思います。

私のほうから皆様方にお配りいたしました2枚の資料ですが、先ず日本経済新聞11月19日、先週曜日、これは1面に「ＩＴ巨人に危機感」とありますが、ヤフーとLINEが来年10月に統合するということのようです。巨大なものができるんだと思っていますが、やはり、そこでですね、いろんなランキングを見てみますと、いわゆるアップルとかアマゾンとか、フェイスブックが上位にいまして、この網かけしておりますヤフージャパンホールディングスとLINEはですね、時価総額での比較ですが3.2兆円です。しかし、アップルは128兆円ということですね。だからもう、数十倍です。そして、米国、中国ですね。こういうふうにして、ずっと水をあけられてい

ます。これは先週の経済新聞の 1 面です。そして次は、先ほどインターネットで取ったところですが、世界の大企業ランキング上位 50 位です。これはですね、1 番大きいのはマイクロソフト、アメリカ、ずっと 12 位まで続きます。それからスイスが 13 位に入って、中国が 14 位ですね。韓国のサムソン 17 位、日本はどこにあるかというと、ずっと下がって 42 位のトヨタですね。それからその右側見ていただきます。小さなグラフですが、こういうふうにですね、かつてはかなり日本企業は出ていました。今やもう日本は、先進国ではないと言われています。ＩＣＴとかですね、こういうところばかりじゃなくて、もう中国は日本の 8 倍の鉄を生産しています。そういうふうにですね。もう完全に水をあけられています。御承知のように日本は資源はありません。ほとんどゼロです。石炭も鉄鉱石も銅もボーキサイトもセシウムも何もない中で、かつて日本が GDP 世界第 2 位、今第 3 位になりましたが、そういうところまで、日本が上がりました。それはともあれ、日本が教育力をもって、科学技術を上げて、そして産業技術力にして、そして経済を支えました。ですから、よそから資源をどんどん買ってきて、それをテレビとかあるいは自動車を組み立てて、世界に貢献して、金を稼いでいます。

恐らくこれからはですね、日本はノーベル賞は取れないのではないかと言われています。これから中国が取ってくるのではないかなと思われます。今の日本のノーベル賞科学者は、だいたい 60 代 70 代 80 代です。これからはもう取れないんじゃないかということで、今、文部科学省はかなり、焦っています。学力向上をやっていかないと日本は、これから、サウジアラビアとかですね、原油が取れるような国であればともかく、資源がありませんから、日本が生き残っていくためにはですね、ぜひともあとは教育力しかないんですね。特に ICT 分野においては完全に日本は遅れをとっています。だからこの辺を強化していかないといけないと思っております。

今年、台湾に行きました。台湾の中でも e スポーツ、いわゆるインターネットのスポーツですが、これがはるかに進んでいます。韓国も日本よりはるかに進んでいます。だからもう本当に日本が遅れておりますので、これはですね、ICT を中心に、日本もかなり頑張っていかないといけないじゃないかなと思っておるところでございます。これは何も、私は経済産業省の大臣ではありませんけれども、やはりこういう体制をとっていかなければ、安来市の教育力も落ちるのではないかと思っております。ただ、今までみたいに、もう、いわゆる学力偏重で、何でもかんでも受験地獄なんていうのは、二度とやってはいけませんが、やはりその辺の認識を新たにすることがですね、まだまだ日本はと言っているうちに、よそはですね今アフリカなんかでも、すごい工場を砂漠の中に建てて、バラなんか物すごく大きな工場で栽培しています。どうするかというと、ヨーロッパにバラを輸出しています。新興国がどんどんどんどん追いつき追い越せです。こういうふうになっておりますので、日本もうかうかしていると、既にかなり、追い抜かれている部分が多いんじゃないかなと思っております。ぜひともそういうことをですね、認識を一緒にして、これからは教育に取り組んで行かないといけないのではないかと思っております。

これはたまたま、ICT 関係でたまたま 1 番新しい情報がありましたので、皆様にお見せしたところでございますが、かなり日本は遅れておりますので、これに限らずですね、ICT ばかりではなくて、いろいろな面でぜひとも日本、ここでもう 1 回、中国を追い抜くよう頑張らないといけないですね。アメリカが衰退していくといって、今から二、三十年前に言われて、アメリカがどんどんどんどん落ちていくと思っていたら、アメリカがぐっと持ち直して、今もう最先端を行っています。やっぱりアメリカはそれだけすごい最先端を行ったのは、世界の人口の 75 億からブレ

ーンを集めている、日本は1億2千6百万で一生懸命頑張っているけど、しょせんやっぱり頭脳の差が出てくるということですね。そこでやっぱり、日本ももう1回ですね。頑張っていかなきゃいけないんじゃないかなと思っています。ただ、日本の経済対策みたいにではなくて、日本の宿命もありますので、ぜひとも、教育を高めていかないといけないなと思っております。その点も含めてですね、安来の現場に帰りますが、安来のICT教育を是非とも推進していかないといけないと思っておりますので、皆様方の忌憚の無いご意見をお願いしたいと思います。

○勝部教育長

ICTにつきましても5ヵ年計画で順次学校に設備をつけていくということで、子ども達の環境が少しずつ整っていくのかなと思っています。市長さんが言われたようにICTが学校教育に入ってきたのが、極めて他国に比べれば遅いと思いますので、他国では既に20年ぐらい前は、もう英語教育でどんどん使っておりましたので、本当にそういった意味では、申しわけないんですけども、教育へのそういった投資が遅かったのかなという気がしておりますけれども、これから、子ども達が一生懸命学ぶようになっていくのかなと思います。そのためには、先生方の指導力の向上ということが前提になってきますので、先生方にもそういった機器を使っていただきくことで、これから伸びていくんじゃないかなと私は思っています。また、伸ばしていかなくてはならないなと思っています。そういった中から、多くはないと思いますけれども専門的なこと学び、世界に通用するような子ども達が育ってくれれば、とてもいいことかなというふうに思っております。

安来市も今年度から、大型提示装置等各校に設置されますので、どんどん活用していきたいなというふうに思っています。委員の皆さんも何かありましたら、お願いいたします。

○議長（市長）

これはちょっと政府の対応が遅れているんですね。とにかく外国から比べると日本がすごく遅れています。第1はやっぱり政府の責任でありますし、我々の行政の責任があると思いますが、これについても挽回していかないといけないと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

忌憚の無い御意見をお願いします。せっかく安来は、情報高校もありますしね。それをいろいろと活用しながら、さらに安来のICT教育を向上していかなくてはいけないと考えております。

○岡本委員

今から5年間かけて整備するというようなことですが、1年でもすごい差が開いていくというICTの世界で1番最初の年にきちんと整備されたところと、5年目に整備されたところと、そこの子どもの学習の格差というか、そういうものが出てはいけないと思います。また、最初に整えられたところのバージョンと最後の年のバージョンというのはもう雲泥の差だなと思います。
それからソフトなんかにしても、全然違うものになっていくと、考えられるんですけど、その辺をやっぱりきちんと埋めつつ、5年間が過ごされるような感じがやっぱり必要なのかなというふうに感じます。

○小村委員

我々の時にはなかったICT教育ということで、ちょっとピンとこない部分もあるんですが、先程も教育委員会の中で説明がありました。今年度中にも機器が全部入る予定だそうですが、実際プログラミングとかそういうのも、最初からもそれができる方向性でやるのか、指導する側の先生方がどこまで習熟しておられるのか、機械は入っているが使えなかったということがないのかどうか、安来に限らず島根県においても先生方の指導能力と言いますか、それはどういうふうに

お考えでしょうか。
（挙手）
○三代学校教育課主査
　失礼します。学校教育課の三代です。プログラミング教育につきましては、現在各校からリーダー的な教員を選出しまして、研修を進めております。東京から講師を招いて、今年度におきましては3回、12月に3回目の研修会が行われます。学んだことを各校に返しまして、研究授業を行います。その研究事業を見ながら各校の中で、プログラミング教育に必要な能力ですとか、技能を学んで行きまして、子ども達にしっかりと指導できるよう、今、研修を行っているところでございます。
○市長（議長）
　それとまた情報科学高校との交流と言いますか、教えていただいたり、情報科学高校の先生方もですね、ぜひともそういうことで使ってくださいということですので、是非とも先生方を招いて、議論を深めて高めていただければと思っております。
○勝部教育長
　今のプログラミングにつきましては、今年もですね、情報科学高校を会場にしていただきまして、情報科学高校の先生、そして、高校生も手伝ってくれていまして、実際に先生方の研修を実施しておりますし、また、普段の授業も中学校の授業に来ていただいて、指導していただいているという、限られたことになりますけれども、常にそういうことをしたりしております。
○市長（議長）
　今、市はですね、台湾と交流したいということで、今年も行きました。なかなか相手から返事がきませんから、正式な交流はしてはいないですけど。台湾では我々は専門学校を見学しました。かなり進んでます。それでそういうところでですね、やはり情報科学高校と交流して、頑張らねばと自覚をしてもらい、刺激を与えていかないといけない思っております。今韓国とはやっていますが、韓国はだいたいに技術力が高いですからね。これからは、こういう情報が、お金になるんですね。昔は重たい鉄とかですね、そういうものが、重厚長大といって、重たいものか大きいものが金になったんですが、今情報が金になっています。今日も、ちょうど防衛省に中国から来ていますが、今も情報戦争とかですね、中国の情報が世界中の情報を全部集めているのではないかというぐらいに情報で商売できるんですね。情報を売ることによって。だから今、そういう情報というは本当に付加価値の高いといいますか、これから価値がもっとどんどんふえてくるものでございますので、是非ともこれに遅れをとってはならないなと思っております。ぜひ安来も情報教育を高めていかないといけないなと思っています。早い話が東京に出なくても自分のところのパソコンでいろいろな商売ではなくて、情報の処理がいろんなことできますから、企業誘致一つにしても、ちょっとした部屋があればいろんな仕事ができるんですね。ですからそういうこともこれからは、我々企業誘致としても考えていかないといけないと思っています。いずれにしても、日本、安来は遅れをとっていますので、これに力を入れていなかないといけないかなと思っております。
○勝部教育長
　ICTとプログラミングがごっちゃになってしまうと少しわかりにくいと思うんです。ICTの機器を使って、学力の向上を目指して、先生方の指導力、授業改善をするということです。黒板に

書いて、チョークで書いたりいろんなことをしながら、これまでやっていたわけですが、ICT 機器を使って、先生方の授業改善をしながら指導力を向上させていくと、効果的な学習をしていきながら、学力向上を目指していくということですね。プログラミングにつきましては、論理的な思考をつけさせる、こういうふうに動かすとこういうふうにロボットが指示どおり動きますよみたいなことです。これはこれでまた違うキットが必要でして、情報科学高校にお世話になるんですけども、そうしたことを含めて、実際の中学校の授業に来ていただいたりとか、先生方の研修ですね。実際にそういうものを使って研修させていただく、そういうキットが必要なんです。ICT とか大型提示装置とかそういったものについては、授業改善を目指して、子ども達の学力向上を目指し、プログラミングにつきましては、論理的な思考をつけるために、ロボット等のキットを使ってですね、研修をしているという、そういったところです。分かりにくいところがあるんですが、少し分けて考えたほうがいいかというふうに思います。

○議長（市長）

教育長が言いましたようにやっぱりパソコンですね、いろんな教材として ICT を使う、例えば社会科の地理を勉強するにしても、その映像やデータを使って、教育の材料として使う場合と、ICT を使ってですね、あらゆる可能性があります。いろんなこともできますから、プログラミングのみならず、いろんなことを、それでやっていくということです。例えば植物の種がこうなってこうなってなってとそういうもので、それだったら、ただ絵本のかわりみたいになってしまいますけども、やっぱり ICT を使ってあらゆる可能性に挑戦していただきたい、こういう力をつけてほしいなと思っているところなんです。

教材としては、やはり図を見てですね、映像を見て、ぽんぽんとやるならいいんですけど、それだったら大したことではないのですが、やはり、あらゆる可能性をこれで切り開いていただきたいと思います。

○加藤委員

ICT については、恐らく子供のほうが、端末については使いこなすも早いんじゃないかなというふうに思いますので、先生が大変かなというふうな気がします。ただ一旦慣れてしまえば、非常に使い勝手のいいものですし、市長が言われるように、あらゆる可能性がありますので、これからの教育には順応できることではないかなというふうに思います。

全然話違うんですけど、せっかく市長さんにこういう資料をいただいて、ちょっと熟読していたんですが、私が感じることなんですけど、世界の企業ランキングと書いてあります。これは、時価総額で標記されていますので、仮にもこの会社を買収するとしたら、この金額だったら株を買って所有者になりますよみたいな指標だと思います。これが本当に、世界の大企業という、何を指標にするか、単なる株価にすぎないので、上位を見てもらうと、IT 関係の企業が連なっているということですので、これが上下することは非常に今後もあり得るので、日本が参入する可能性もなきにしも非ずかなというふうに思います。

何でこんな差がついたかっていうことですが、最近思うんですけど、私はこの委員の中で、ただ 1 人民間企業で学校経験者ではありません。諸外国に比べて、学校教育の中に、お金に関る教育が日本は全くないですよね。皆さんも、今おられる方も、小学校中学校のときに、お金の使い方の教育は受けられましたでしょうか。ないですよね。だけど、実際、実社会に出るとすぐ、それを求められますよね。生活にも必要ですし、社員になれば、営業もしないといけませんから、

そういうようなところに特に飛び込まされます。ただ、子供のうちというか保護者のいる中で、育てる環境の中では、そういったことは伏せられるというか、親が、あるいは、周りの人達が、お金のことはまあいいからいいからみたいな、ああいうような環境に、日本は育っているんじゃないかなと思うんですよね。ただ諸外国を見てみるともう小学校中学校ぐらいのレベルからお金に関わる教育がプログラムされているし、どうしたらそのお金を豊かな生活のために使っていくのか或いは増やしていくのかということは、もう教育段階でされているので実社会に入ってもそんなに抵抗なく行かれるというのが、欧米の考え方じゃないかなと思うんです。何かその辺がすごく、日本は金もうけが悪みたいなところがあって、今ちょっと思い出しましたけども昔、村上ファンドの村上さんがメディアの前でお金もうけして何が悪いのですかって言ったら、もう外国に飛ばされてしまいましたよね。今どこかの国で生活されていますけど、でも今、彼は、結構日本に帰ってきて、PTA か何かに呼ばれて、お金の稼ぎ方というか、どうしたら自分のお金をうまく利用できるのかというようなことを講演されて、日本全国を回っておられるそうで、それがすごく費引っ張りだこになっているわけですよね。今まではそういった考え方がなくてもお金は子供からお金から切り離されているもの、避けるものだという考え方があったんだけど、考えてみれば、学校を卒業したらすぐお金が必要ですし、自分でそれをやりくりしないといけない、実社会に飛び込まされるということを考えると、やっぱり、文部科学省ももうちょっと、そういったところも柔軟に考えていくべきではないかなという、もう四角四面と言いますか、こり固まった考え方を地方に押し付けるみたいなところが、あるんじゃないかと思っています。その中で、学校現場は右往左往してしまうというようなところがあるような気がしてなりません。ここにも、説明もありましたけど、インクルーシブ教育システム構築ということで、学びたいところで、学びたいものを学ぶというようなことも、やっと出てきたのかなという気がします。そこを、今後安来市として、独自のやり方で推進していく、他市町村にはないスピードで展開していくということを目指された方がいいかなというふうに、雑感として思いました。

○市長（議長）

それに関連してですね、やはり加藤さんと同じように、日本はどちらかと言いますと清貧の思想ですね。武士は食わねど高楊枝というような思想がかなりあって、金儲けしていると悪みたいな感じがするんですね。ところが、西洋人というのはそうではなくて、特にアメリカ人なんかでは、起業して事業を起こす、そうするとそこで従業員が雇える、従業員の皆さんの生活ができる、家庭が豊かになる、ということで、そういう起業する人をすごく尊敬するんですね。だから、大きな会社を建てるとそこに雇用が生まれて、そこの従業員何千人の家計が潤うんですよ。だから、そういう気がないと大企業が悪者だとかですね、そういう考えがまだあるんですよ。何か搾取してるとか。ところがアフリカなんかは、そういう起業する人がいないから、労働者がごろごろごろごろしてるんですよ。勤めるところが無いから。だからそれをある程度日本も考え直していかないと、何か、大企業が悪いことをして儲けているというのではなくて、大企業がかったら今我々のこういう生活できませんよね。トヨタやパナソニックなど。そういうことを抜きにして、何か大企業が悪いことをしているような風潮がずっと日本にまであったんです。だからやっぱりその企業して初めて、従業員が働いてそこの家族を増やす、これは安来市内のいろんな事業所も一緒です。そういう人がいなかったら、全くアフリカの未開のところで、誰も起業する者がいない。朝から晩まで横たわって、いわゆる日雇ではないけどそういうところにちょっと出るぐらいで。

だからやはりそのことをきちんと日本が、そういう欧米の良いところを見習わないと、金が全てではないけども、でも金というのはやっぱり人の命も救えますから。金があれば難民も救えるし、本当にアフリカの貧しい人たちも救えるんですよ。金がなければいくらいいことを言ったって、どうしようもないですよ。だからお金というのは、それが全てじゃないけども、とても重要なことなんですね、産業も一緒なんですよ。だから渋沢栄一が紙幣になったのも、日本の産業の父ですから、紙幣になったんです。やっと僕は日本も欧米の考えに少し近づいたかなと思います。だからそれが、封建時代もだし、大正デモクラシーから始まって、戦後民主主義のちょっと歪んだ、歪むなどと言ってはいけませんが、ロシアとかですね、中国的な思想がちょっと入っています。ああいうところは皆、今、発展してないですね。独裁主義になって。そこはちょっとその辺の考え方を、日本人も考え直さないといけないと思っています。僕自身、大体同じような考えをしてます。

〇加藤委員

それでですね、私は、安来高校の中に、松江養護学校分教室ができて今年で 10 年目ですが、ちょっと障害のある子たちが 20 数名安来高校の中の分教室を借りて学習されています。毎年文化祭があって、これは松江の川津校舎でありますが、安来高校では、パンとかジャムとかああいったものをずっと作っているんですよね。それを、材料の栽培から、安来高校の一角を借りて畑をして、そこから加工して、最後は販売をして、もちろんラッピングもデザインも。何かいろんなデザインを自分で考え、やっていくっていうのを、垣間見ていると、かえって普通高校の安来高校の子よりも養護学校の子が、実社会に入ってすぐ即戦力になるなと思います。毎年、うちも養護学校から 1 人就職を受けておりますけど、ああいう訓練が、毎日どこかでやらないといけないというわけではないけど、意識づけとしてないと、勉強勉強でいい大学に行かなきゃ、いい企業に入らなきゃっていうようなことのための勉強ではなくて、いかにこう生活をしていくのか豊かな生活をしていくためにはどういうことをしないといけないものか、社会経済の流れの中の一端を勉強していく機会っていうのは、どこかで早めにやられたほうがいいのではないかなと思いましたのでそういう発言をさしていただきました。ありがとうございました。

〇議長（市長）

ちょっとここで、時間がきていますので、次は児童虐待について、皆様方の御意見をいただきたいと思います。最近は、虐待が多くて子供さんが犠牲になることが多いです。これについて、いろんなご意見があろうかと思いますので、よろしくお願いします。

〇小村委員

児童虐待、例えば暴力とか、そういった外見でぱっと見て分かるっていうの学校現場で仕事しておられる方あるいは保育所幼稚園などで、そういうのは確認できることも多いんですが、普段の生活の中ではなかなか、隣近所でないとなかなかそういった声が聞こえないので、認知しにくいんですが、1 番感じるのは、むしろ、ネグレクトっていうか、ほったらかしですね。何かそういう親はまだ大人になりきっていない、何か子供のような親がたくさんおられるっていうようなことも何か感じます。たまに飲み屋さんに行ったりすると、こんな時間に何で子どもがいるんだろうという、子連れで、そういうところに来ている。今、この時間から、これからどうするつもりかなっていうようなことを感じることがあります。めったに出ないんですけど、たまに目撃することがあります。やっぱり、親になるんだという気構えもなしに、子供ができてしまったとい

うような、そういう、家庭も多いのかなあということなんかもいろいろ感じることが多いです。やっぱり、本当に食べてるんだろうかと、明らかにすごく痩せているなとこの年齢にしてはというような子供をたまに見ることもあるけども、なかなか、食べさせているかなんてことはなかなか直接は言いにくい部分でもあるし、そういった、いろんな人の目で関わりをつくって、それこそ、コミュニティーじゃないけど、隣近所やっぱり関わりながら、そういった子どもの変異に気をつけていくことが必要だと感じます。

〇岡本委員

たくさんの機関、それから、いろんな人によって、子ども達のことに気づいていくということが大切なことだと思います。余りたくさんいてごちゃごちゃしているという印象もあります。ただ、発見しても、最近のこの問題については、法律に関わっていることがあったりして、せっかく関わっているのに、それが何かマイナス方向のところがあり、報道を見ていてもせっかく関わっているのに、関わっていることのよさみたいなところが全然出てこないで、何か批判ばっかりされて、そこのところが問題かなと思っています。もし何か安来で、そういうことが発見されて、すごい対応が遅いみたいなことを言われた時に、法律的に守ってくれるような人というのは、いらないのですかね。

〇三輪委員

家庭に誰もいない状態で学校から帰ってくる子ども達とか、いろいろ子ども達の状況は豊かではないという感じはしております。そこでどうしたらいいかっていうことなんですけども、私たちが小さいころ、そんなに豊かな時代ではなかったんですけども、隣近所でもご飯を食べていない子は一緒にまとめてご飯を食べさせてあげるだとか、ご馳走はないけれどもサツマイモをおやつに食べようとか、何かそういう助け合いみたいなものが地域にあって、食べられない子もそこそこに成長して、楽しい生活をして、おじちゃんおばちゃんというふうに、隣近所がコミュニケーションが良くなったりして、ぜいたくはないけど豊かな時代があったように思います。皆さんは今忙しく働いておられて、そういう心を隣近所に配っていく力が、なくなっていったのかなっていう思いがしましたので、できるだけそういうようなコミュニケーション、隣近所との助け合いみたいなことが生まれてくる方法はないかなと考えております。また、地域で奉仕してくださる方があれば、帰ってきて寂しかったらおいでよみたいな、そういう場所があったりとか、そういうふうになるといいなと思います。何とかそういうことが、少しずつでも違う地域で、小さいところから、自分達の町の子は自分の子であるみたいな気持ちが皆さんの中に一人一人あったらが固まっていただけると力になるのかなと思っているところです。なかなか実践ということにはなりませんが、少しずつ出来たらいいなとおもっています。

〇勝部教育長

基本的には子どもの生命、安全を守るっていうことだろうと思うんですが、安来市も行政を中心に 18 の組織で、要保護児童対策協議会があります。年間を通じて 0 歳から 18 歳の子ども達の生活環境を含めて、かなりきめ細やかに連携をして対応しているというふうに思っております。虐待と一口に言っても身体的虐待もあれば、心理的虐待、性的虐待、また、先程もありましたようにネグレクト、特にネグレクトが多いんですけども、そういうことに周りが気づく目がどれだけ育っているかということで、保育士さんであれ、学校の教員であれ、近所のおじさん、おばさんであれ、そうした福祉の目をいかに持つかということなんだろうと思います。

就学前では、なかなか言葉で、人に伝えられない子供たちを、やはり周りが気づいてあげない限りわからないわけで、それはやっぱり就学前では、登園した時の子どもの様子や保護者の言動ですね、そういうものを敏感にキャッチしていただくことや、あるいは年齢に応じた、身長体重がない低身長低体重なんですけれども、これは単純に見た目ですがそういったことに気が付かないといけません。そういう鋭い感覚を持ちながら、子どもに接していくことが大事だと思います。ただそういう意味では安来市の就学前に関わる各学校教育に関わる皆さん、行政の皆さん、安来市としては連携を保って、きめ細やかに対応してもらうというふうに思います。
それで、なくなるということではないけれども、いかに早期に発見をして守ってあげるのかということになろうかと思います。重大な取り返しのつかないようなことにならないように、まず、しっかり、きめ細かに見守っていくというふうに思っています。特に、小中学校の先生方には、まず、安全ということを第一にお願いしますということで話をしています。
○加藤委員
児童虐待、いじめの問題とかですね、最終的には、自殺とかですね、そういった不幸な結末を迎えるケースというのは消えることはないんですけども、今日資料をいただいた中では、相談件数とかですね、ケース検討会議回数とかですね、そういった資料をいただきましたけれども、ちょっと私の耳に入ってませんけども安来市では、不幸にしてそういった自死というか、そういったことはないんですよね。島根県では結構あると思うんですが。
○勝部教育長
それは、ないですね。
○加藤委員
0 件。過去にも、近年はあんまりないですよね。
○勝部教育長
私が教育長になってこの 6 年間はありません。
○加藤委員
これは私の経験上ですけれども、都会の方に行くと、ほぼ、毎週なのか、毎月なのか分かりませんけど、電車への飛び込み自殺とかですね、そういったことも頻繁にありまして、私もそういうケースに出くわした、実際見たわけではないんですけども、この 5 分後ぐらい行ったら、もう大騒ぎになっていたというようなことがありました。でも、聞くところによると、しょっちゅうだよみたいなことで、子供たちが、自分の命に対する、重みというか、あまり意識してないというか大切さを感じてないとそういった子がやっぱり増えてきているのかなと。それが、家庭環境なのか学校環境になるのかちょっと分かりませんけれども、いずれにしても簡単に命を絶ってしまう子供の数というのは、少子化なのに増えているというふうに聞いていますけれども、島根県では多分あると思いますけど、安来市ではないということは、非常にいいことかなと思います。今後もそういったことにつながらないようにしていただきたいと思います。私も後で書こうかなと思ったんですけど、大綱のほうにも、命の尊厳っていうか、そういったような文言も入れておいて方が良いかと思います。どこに入るのかなと今考えながら、道徳教育なのか人権教育なのかなと思いながら見ていたのですが、そういった最悪の事態にならないという意識というか、自分は必要な人間なんだよ、家庭でもそうですし学校でも地域にとっても、大事な命なんだよということの教育を大綱に入れていただきたいなと思いました。

○議長（市長）

特に昔はですね、親が子供をいじめるなんていうことで、よく昔からありました。継母とかですね、本当の親じゃないけども、後妻さんが先妻さんの子どもをいじめるとかか、逆にですね、後から来ただんなさんがいじめる、ただ最近みたいに殺しませんよ。最近は殺しまでいきますからね。やっぱり我々の周りでもいろいろ聞きますが、テレビドラマでも、継母にいじめられたとか、最近はもう一つ進んで殺しまでしますよね。やっぱり、それは若い、いわゆるモラトリアムと言いますか、生物で言うと、幼形成熟、幼い形をしているけど成熟して、子供を産んでますが精神が成熟してないんですよね。だからああいう幼形成熟の一つかなと思うし、それともう一つ、やっぱり今、マスコミも含めて、社会がそういう物の豊かな中で本当に金、物、さっきは大事だと言いましたが、これは余りにも重視して、物の大切さとか、いとおしむとか慈しむとか、そういう心があれば相手の気持ちも分かるけれども、いわゆる情操が育ちにくい環境になって、だからもうちょっとその辺の情操教育を含めて、いとおしむ慈しむとか、ああいうことをやっとみんなで助け合うとか、東日本大震災以降出てきましたけれども、もう 1 回そういう日本の美しい心が育つような情操教育を、学校の先生方もしていらっしゃると思いますけども、なかなか育ちにくいと思います。僕がいつも例に出すのは、鉛筆を大事にしなさいよと言っても、家の中には何十本とあります。消しゴムもですね。テレビを見れば、ビールをじゃんじゃん飲め飲めとかですね、飲み放題、自動車ももういくらでも新しいのが出たから、トヨタの新しいのを買えとかですね。物をどんどんどんどん消費しなさいというですね。それでいて、一方先生方はですね、物を大事にしなさいと言われます。なかなか通用しないんですよ。僕らの時は本当に鉛筆をこれくらいになるまで一生懸命使った分ですけども、すごくあるんですね、これ全て。おもちゃにしてもそれでおって、物を大切にしなさいと言います。うちの孫も一緒なんですけども、なかなか、そういう教育ができないです。昔は教育するしないに関らず、物がないから、もう我慢せざるを得ないんですね。食べたくても、あるいは欲しいと言っても、ないから、それがもう我慢の力になっていうる、我慢力というか忍耐力ですね。今の子は、本当にそういう我慢することがないですから、ボタンを押せば冷たいものが出てくる自動販売機があり、冷蔵庫を開ければ冷たいジュースが入っています。我々の小さい頃は、井戸の中にすいかを入れて、大した冷たくないのでも、おいしいな冷たいなって言っていました。今本当にですね、冷蔵庫を開ければすごく冷たいものを飲めるし、そういうふうに便利になって、物のありがたみとかそういうことがなくなっています。

人の命もですね、本当に、いろんなドラマとかいろんなことで、人を殺したりしますから、その辺の境界がなくなっていますね。僕らも特にそういうものを、PTA の方で、話し合っていただいて、今こそですね、PTA を活発にして、今問題はないよということではなくて、ネットやネット犯罪のこともあるし、いじめのこともあるし、いろんなことを今こそ PTA が、大きな金がたくさんあるので、やってもらいたいと思います。今の PTA は、ちょこちょこっとして何か市の大会に行ってもたったこれだけっていうぐらいですね、問題意識がちょっと薄いような気がします。僕も PTA の出身ですから。だからそれから見ると、何か今こそいろんな大会をやって、頑張らないといけないのに、何も問題がないような顔をしています。以前はあそこで何か意地悪な子がいると学校全体でやろうと対策をとります。ところが今はですね、あの子は 2 年生だからうちの子は 3 年生だから関係ない、2 年生にいくとあれは 3 組の子だからとか、もう個人のことにしてし

まうんですね。学校全体で、この暴力に対して、あるいはこういうものに対して、対応していかないといけないという連帯意識はないんですね。

かつて日本は、校内暴力が吹き荒れました。日本じゅう。ところがあれは日本 PTA がしっかりしてい立番したりしていました。もうすごいのがいたんですね。もう上から、イスは飛んでくるは、もう、三階からイスが飛んでくるというようなことでした。その校長は、よしマラソンをやろうということで、マラソンをやって正常化しました。県内でもすごくありました。あれはやっぱり PTA が立ち上がったんですよ。やっぱり、今こそ僕は PTA を活性化してもらいたいなと思っております。是非とももっと、問題意識をもっていただきたいと思います。その当時は俗悪番組をしたんですね。夕方でも、まだ子供が起きているような 4 時 5 時でも、ベッドシーンをしたりですね。そういう粗悪番組を作ったりしていました。それで日本 PTA がテレビ局に言って、みんなでやめさせて今そういう番組がありません。だからそういうことをやっぱり若いお父さんお母さん方が、一致団結して、PTA でも僕は活動してほしいなと思っております。みんなでやらないと、誰が悪いとかそこのお母さんが悪いとかお父さんが悪いとかではなくて、やっぱり全体として、直していかないとかという感じを持って、私は思っておりますので、行政が悪いとか地域が悪いとか家庭が悪い学校が悪いとかではなくて、みんなでそういう認識を持って、もう 1 回昔のいいところを、もう 1 回振り返ってと思っております。もう 7 分程ですがですが他にはありませんか。

○勝部教育長

その時に話をしたらよかったのですが、二点ほど私のほうからはお話をさせていただきたいと思います。いわゆる金銭教育と申しましたけれども、今、安来市の小学校の中では、日銀の金融アドバイザーに来ていただいて、金銭教育を実施している学校があります。少ない時間ですけれども、総合的な学習の時間を使って、アドバイスいただいたりしております。既に、全ての学校ではないですが、実施をしているということです。

それからインクルーシブ教育システムというお話が出ましたけども、これは、基本的に障がいのあるなしに関わらず、或いは障がいの程度に関わらず、本人、保護者さんが希望されれば、通常学級等で授業が受けることができますよという仕組みなんですけれども、ただこれには条件がありまして、合理的な配慮ができるかどうかっていうことです。抽象的な言い方ですけれども、介護が必要な子どもさんであれば、介助する人がつかなければなかなかできないわけですから、人がつけれるかどうかとか、或いは当然エレベーターを設置しなければ、3 階に行けないとかですね。中学校になれば教科担任制ですから音楽室とか、理科室とかいろいろあるわけですけども、そういった条件をクリアすることができるかどうか、そういう配慮ができれば、そうしたことも可能ですよということです。ただ、できないこともどうしても多いので、障がいの程度を考えながら、合理的な配慮が可能ならばできますよというところです。

○議長（市長）

はい。他にありませんか。是非とも次回はこういうテーマも取り上げてほしいとか、、何かございましたらお願いします。

○加藤委員

全然、これまでと話違うんですけど、今まで総合教育会議を何度か重ねてきましたけども、学校の配置の適正化をずっとしておりましたけれども、今後は、何か進展されるお考えがあるのか

か、ちょっとお聞きしたいなと思います。来年の小学校1年生も284名、300人を切ってしまいましたので、今後、学校の健全な経営という観点からもですね、適正な配置というのは、避けて通れない検討課題だと思いますので、市長の考えをお聞きしたいなと思います。

○議長（市長）

昨日は島根県の市長会と知事との懇談会がありました。今、今日の県議会の中で恐らく議論になっているのは、クラス定員を増やすということで、どうもいろいろ議論が白熱しているのではないかと思っておりますが、これも、今少子高齢化でだんだんだんだん財政難になってきており、全国ですね。だから、これをどうして合理化していくか、合理化と言うと聞こえは悪いですけど、やはり幼稚園でも学校でも、それだけ人員配置をしたり、維持していこうと思えば、建物設備を、相当それだけのコストがかかる、そうすると、最終的には、市民の負担になるんですね。市民の皆さんの税金を或いは、下水道料金、水道料金或いは、介護保険料の何かを上げさせてもらわないと、だんだん市民税を上げるとか、固定資産税であるとかですね。皆さん、市民にみなはね返って来ますから。それを国が出してくれる訳ではありませんから、だからその辺をですねやっぱり市民の合意としてですね、いわゆる、我々は今、総務部長を中心にいろいろな適正化を図っていっているところでございます。本当に、人口減少、少子高齢化で、金をもうけてくれる人よりも年寄りの方が、養ってもらうほうが多くてですね。もう日本は大変ですので、その辺を、皆さんと相談しながら、適正化をしていかないといけないと思います。これはですね、また、案ができれば、また皆様方にお示しして、現状をお示ししながら、相談していきたいと思っております。大体今拡大するのは、出雲市だったら拡大するかもしれませんが、外国人がたくさんいますから。この間出雲市が、中国市長会で、うちは5千人ぐらいいると言ったら、岡山市が1万7千人いるというようなことを、外国人が、あんなことを言っていましたから。これから外国人がどんどんどんどん入ってくるんじゃないかなと思います。今現在、安来は280名ぐらいですね。恐らくこれからまだまだ入ってくると思います。他にはございませんか。また、ちょっと適正化については題を、あらかじめお示しして下さい。早目に。

○金山総務課長（事務局）

はい。

○議長（市長）

それでは皆様の、安来市の教育行政に対する貴重な御意見、ありがとうございました。これからも、この会議の中で議論を重ねて、安来市の教育をさらに振興していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。令和元年度の第2回目の総合会議を閉会いたします。本当にありがとうございました。